



「GROCERY MORISUKE」の店内



HANAわくすい店長の森村かおりさん中央とスタッフの方



ホルダリングを楽しめる施設も



波佐見焼が並ぶ「南創庫」



波

佐見町の西の原はレトロな風情が漂う、お店めぐりをしながら散策を楽しめる場所。二〇〇一年までこの地には江戸時代から続く製陶所があったが、閉塞後、若い陶芸家の移住地として整備が始まったという。その後、カフェや雑貨店、若手アーティストの発表の場としてのギャラリーなどがオープン。年々、店舗が増え、現在は九店舗が営業している。

オーガニックやナチュラルにこだわった食材と雑貨がずらりと並ぶ「GROCERY MORISUKE」。

などの調味料やオーガニックスパイスをはじめ、普段あまりお目にかかれない珍しい商品がラインナップしている。目を惹くカラフルなパッケージも魅力で、

食卓が楽しくなりそうなものばかりだ。「HANAわくすい」に並ぶ衣食住にまつわるアイテムはどれも、選び抜かれた一品の風格

西の原

製陶所跡に生まれた 散策スポット

がある。店長・森村かおりさんは商品のコンセプトを「波佐見焼は日常使いの器として、日々の生活に寄り添ってきました。長く続いてきた作り手のまちだからこそ、店では『ずっと使えるもの』を取り扱っています」と話す。

「このまちには、外から見るからこそ分かる良さがある」と言う森村さんは神戸からの移住者。「長崎は昔から外から来た人を受け入れる文化があるのでしよう。私も程よい距離感で温かく迎えていただきました。波佐見に来て、有名なあの商品も

波佐見焼だったのか、と知ったことも多くあります。波佐見焼は作家さんが手掛けるものも素晴らしいですが、製品を作るといふ、プロフェッショナルな立ち位置もいなど感じています。今はゆっくりとした時間の中で好きな仕事ができ、とても楽しいですね」。

確かに波佐見のまちは時間の流れが緩やかだ。特に建物や小道のあちこちに製陶所時代の面影が残る西の原は、日常の喧騒を忘れさせてくれる。緑を揺らす風も実に心地よい。